

# 『たぶん顔がわり』

作 吉田 康一

## ○登場人物

津田	三五歳前後	未婚	ウェブデザイナー？
みつは	三〇歳前後	未婚	美容師
ひろぼん	三五歳前後	既婚	そのアシスタント

0 開演時刻になると、劇場のどこかの席から着信音が鳴り出す。

それは「マリンバ(アイフォンに入っている)」のメロディである。

あるヒトは自分のアイフォンが鳴ってしまったのかと電源を確かめ、別の  
あるヒトはあたりを見渡して犯人を探してみたり。そういう：我が事のよ  
うに気になったりならなかったり、なんだかざわめく客席の様子でありた  
い。みょうなヒヤヒヤ感が生じてくれることを期待したい。

やがて、鳴り続けていたマリンバが、スピーカーからも流れだす。

客電がアウト。

劇場が暗くなると、マリンバのメロディが増幅してゆき、いびつなメロデ  
ィと化し、音が弧を描くように四方八方から鳴り響きはじめ、そしても  
のひとつのマリンバメロディへと収束してゆく――

1 その着信音のマリンバが鳴っているなか、ふわっと明るくなる。

とある美容室「グランルーブルぞうしがや」。

ウッド調で統一された、落ち着いた雰囲気の内内である。

カット椅子に津田。

そばに、みつは、ひろぼん。

三人の前方(正面)には鏡がある。

(以降、三人はおもに鏡のなかで視線をあわせて会話してゆく)

津田 (鏡のなかの自分に見入っている)――

ひろぼん (津田のポケットで鳴っているアイフォンが気になっている)――

みつは (この雰囲気になってる)――

津田 (着信にかまわず、鏡に見入っていて)――

ひろぼん ……(津田に)おい、でんわ。

着信が止む。

みつは ――あ。あきらめた。

やや間。

津田 (鏡に語る)ジーツとみる。ずいぶんジーツとみる。するとたいい、ほかに関心が向かう。目を逸らしてしまう。そこを踏んばってジーツとみる。にらめっこする。

みつは・ひろぼん ……？

津田 (鏡のなかの自分に語る)フシギなもので、影ひとつない。シツカリうつす。

ごまかせない。残酷なのか、親切なのか、ハッキリ。こんな丸顔だったかな？

——(自分の)顔なんて、自分の後頭部とおんなじで、知っているようであんがい、知らないもんだな。実は本当にはみていないんじゃないか、とか考えながら、ジーツとみ続ける。…すると。み飽きるほど、馴染んできた自分の顔が…だれ？ おれ？ 顔がどこかへ出掛けてゆき、

ひろぼん (強く遮る)おんなじだ。いつもどおりだ。

津田 ……いつもどおりか？ (不満)

ひろぼん ああ。

みつは あー、み飽きちゃった？ じゃ思いっきりバツサリやって、イメチェンでもする？

みつは、美容師の手つきで津田の髪をいじる。

津田 ねえ、みつはさん。

みつは ん？

津田 どんなふうと思う？ おれの顔。

みつは え？ (いきなり)なあに？

津田 なんだろ。ずっとみていたって顔？

みつは …ずっとみていたい？ あー、好きな顔かってことね？ ぜんぜん。

津田 ……

ひろぼん (思わず笑う)

みつは なに笑って。かわいそうでしょ？

ひろぼん …え？ (あなたがいうか、というおどろき)

津田 ……

みつは (津田に)華がないよね。

津田 ……

みつは あ、でも、特徴といえは…、

津田 ……特徴といえは？

みつは 特徴がないところ？

津田 ……

みつは あー、でも。

ひろぼん でも？

みつは だれかになにか、迷惑かけてるわけじゃないから、だいじょうぶじゃない？

津田 ……

ひろぼん (津田に)よ。大丈夫だってよ。

みつは そ。問題ナシ。

ひろぼん だってよ。よかったな。

津田 みつはさん。

みつは あ、はい？

津田 顔をかえてくれる？

みつは ……？

ひろぼん ……？

津田 いっそ顔をかえちゃってください——

ストーンと暗転。

2 真っ暗のなか、 아이폰の マリンバが鳴り出す。

しばらく鳴り続けて、やがて、ふわっと明転。

きのう。夜。津田のアパート。

テーブルの上に、ビールの缶たち、つまみなどが無造作に。

鳴っている 아이폰もテーブルの上にある。

傍でひろぼん、背中を向けてガラケーでメールをつくっている。

やがて津田が入ってくる。

ひろぼん (メールをつくりながら)なん度目だ(呼び出し)? ですよ。

津田 あとだあと。いいからちよっと(座れ)

ひろぼん 仕事だろ？

津田 なおさらだ。いま行方不明だから、おれ。

ひろぼん (みて)…行方不明？

津田 ( 아이폰に)——ケツ。

ひろぼん (なぜか威勢よく) そうか!

津田 お、おう。

ひろぼん おう。

津田 おい、そこに座れ。ほらケイタイ(しまえ)。

ひろぼん おう。(座りなおす)

着信がやむ。

津田 こっち向け。

ひろぼん あ、うん。

津田 おれを見る。

ひろぼん ん。

津田 ——なあ。

ひろぼん ん?

津田 どうだ?

ひろぼん ん? どおって?

津田 おれの顔。

ひろぼん ……かお?

津田 ちがうよな?

ひろぼん ちがうよなつて?

津田 いつもとちがうよな?

ひろぼん んん?

津田 こんな顔じゃなかったよな?

ひろぼん ……え、そんな顔じゃなかったか?

一瞬の間。

津田 こんなじゃねえつて。

ひろぼん そんな顔じゃない? え? そんな顔だったろ。

津田 (顔を撫でて)

ひろぼん ——

津田 あちがう。

ひろぼん あ、へー。ちがうんだ。

津田 ああ。こんな顔じゃない。

ひろぼん あそうー。

津田 いいか、みる、こころ。こころへん。

ひろぼん ……?

津田 な、どうだ？ いつもとちがうだろう？ ちよつとちがうよな？

ひろぼん (まったくちがわないので)え？

津田 (期待したい思いあって)…ちよつとは、ちがうよな？

ひろぼん …じゃ、どんな顔なの、おまえって？

津田 だ、だからとおだつて、いつもとおりがちがうよなって、聞いてるんだろ？

ひろぼん いつもとおりがちがう。(つるりという)

一瞬の間。

津田 (不満じゃあどんなだよ？ いつもとおりがちがうって。

ひろぼん それ。(と、指す)

津田 こうだつて？ …(それじゃ)わかんね。説明しろ。キツチリ。

ひろぼん (めんどくさそうに)聞いてどうする？ 自分でちがうって思ってたんだろ？

津田 確認だよ、確認。ヒトにどうみられてるのかつて確認。鏡だつて、手触りだつて、けつきよくおれの感覚だろう？ おれの？ だから「おまえ」に聞くんだよ。

ひろぼん おい。

津田 あ？

ひろぼん どうして気にする？ なにがあつた？ 恋したか？ 若いかな？

津田 そらすな。みる。顔だ。

ひろぼん (やれやれ、という思いのため息)

ひろぼん、けど見詰める。

ひろぼん ——(にやりして)ふふん。

津田 ん？

ひろぼん、もったいつけるように見詰めて、

ひろぼん まず。とびきりイイ男ってわけじゃない。

津田 ああ。(わかつてる、といった語調である)

ひろぼん (意外だったので)ああ？

津田 ああ。(こだわりなく)それで？

ひろぼん あ、ああ。…うん。いってしまおうと、おまえの顔は、

津田 ああ。

ひろぼん つまらないよ。

津田 ……

ひろぼん うんそうだ。つまらない。

津田 あ、ああ…、

ひろぼん それに、パツとしないし、目立たってない。

津田 ……え？

ひろぼん 集合写真でも目立たってない。たとえば有名な、テレビかなんかにバンバン出てる人気グループ、そのメンバーのひとりだったとしても、すぐ浮ぶ顔と浮ばない顔があつて、もちろん浮かべてもらえないほう。いわれて、ああそんなヒトもいたねって。そっち。

津田 ……

ひろぼん ……なんていうか、おまえは影がうすいやつ？

津田 ……かげ？

ひろぼん 味気ない顔だよな？

津田 あじけない？

ひろぼん ああ。あじけねーよ。平凡すぎるんだ、顔が。

津田 へいぼん…、

ひろぼん (かまわず)平凡っていうのはつまり、特徴がないってことだ。ノン・オリジナリテイ。

ひろぼん、グーツと寄って、津田の顔を間近で見詰め——、そしてはなれて、

ひろぼん しょうゆ顔っていうの、そういうの？

津田 ……しょ、しょうゆ？

ひろぼん そう、しょうゆ。(ちかづく。首をひねる)むしろ塩顔か？ (はなれて)

酔顔かな？

津田 スガオ？ ……素颜？ (いわれたことあって)…キムチ顔？

ひろぼん ……キムチ？ あ、キムチ！ ハハ。

津田 ……

ひろぼん そうか、(ちかづいて)キムチ。(はなれて)うん、キムチ。

津田 ハハハ…

ひろぼん (思いついて)あ。おまえ(の顔)なんだかチャチャツと描けそうだよな？

津田 かく？

ひろぼん ああ。ドロウだよドロウ。

ひろぼん、津田の顔を参照して空中に描きはじめる。

ひろぼん サー。シャー。クルーツ。

津田 (見ている)

ひろぼん ハイ(おしまい)。へへん。(ちよつと得意げ)

津田 ……え、終わり？ それだけ？

ひろぼん ああ。手抜きじゃないぞ？ つまり、おまえはそういうシンプルだ。

津田 …絵文字かよ、メールの。…(あれは)顔文字っていうのか？

ひろぼん それなら言葉で表現できないニュアンスを表情で伝えているだろ、しかも面白おかしく。が、おまえのソレ(顔)はそうじゃない。いつてみりや、ヤツパあじけねえんだ。

津田 ……

ひろぼん (こともなげに)いままでよくそんな顔で平気だったよな？

津田 (チクリして)…

ひろぼん (からかうカンジで)あれ？ そこにちっちゃなホクロか？

と、ひろぼん、おもしろいのか、またグーツとちかづいて津田の顔を見詰める。

「おや」と思い、こんどは、はなれて見詰めてみる。

するとハツとなり、また近づいて見詰める。いぶかしいのか、こんどははなれて見詰めて、またハツとなつてちかづいて、でもヤツパリはなれて。(これを繰り返す)

津田 さっきからなんだ？ (寄ったり引いたりしてるので)

ひろぼん ああ。おもしろいぞ。へへ。

津田 (なに?)

ひろぼん おまえの顔に「べつの顔」がみえてくるんだ。

津田 べつの顔？ ほんとかッ？

ひろぼん ああ。(はなれて眺めて)おまえ。(ちかづいて)おまえ？ (はなれて)お

まえ。(ちかづいて)おまえ？ (はなれて)おまえ——

津田 ……



ひろぼん (またちかづいて。そしてはなれて)…うん。

津田 なにしてる？

ひろぼん やっぱおまえが一致しなくなるんだ。そこにいるのはだって変わらずおまえだろう？ けど、

津田 けど、けどなんだ？

ひろぼん ちがう顔が現われてくるんだ。フシギだろ？

津田 ちがう顔？

ひろぼん (ハッとして)もしかしたら、

津田 もしかしたら？

ひろぼん …ぼくはだいじょうぶか？

津田 …は？

ひろぼん みているぼくの認識が疑わしくなってくる。

津田 おい？

ひろぼん つまり、おまえのコトをみてるのか、おまえのカオをみてるのか。…

ぼくはおまえをみているのだろうか。(芝居がかって)…おい。おまえはそも

そも、なにによって、おまえだってわかるんだ？

津田 ……なあ？

ひろぼん あ？

津田 おまえ、

ひろぼん ん？

津田 だいじょうぶか？

一瞬の間。